



## 吉田町花の会創立六〇周年に寄せて 花のある町・花のある暮らし

吉田町議会議長 大塚 邦子

吉田町花の会が創立60周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。また、長年に渡り、わが町の沿道に四季折々の花を植え、町民の皆さんや来訪者の方々の心を癒し、和ませていただいておりますことに敬意と感謝申し上げます。

貴会の創立が、私の誕生する一年前の昭和三十一年であると知った時、とても長きに渡り、会の精神が時代を超えて会員の皆さまに脈々と受け継がれて来られたことに感銘いたしました。六十周年は、人生で言えば還暦。私も、この歳を迎え、貴会のように継続は力なりの人生を歩んでいきたいと存じます。

さて、私が貴会の活動を知ったのは、平成十一年、現職についてからになりますが、印象深いのは、平成十三年に開催された『静岡県緑・花・祭』であります。広大な敷地に、圧巻の緑花木。美しい花や樹木を管理する御苦労も知りました。水やりや施肥、病害虫の駆除や台風への対策など。だからこそ、私たちはこうして四季折々の美しい花を楽しみ、日常の疲れを癒し、家族のふれあいができることに気づいたのです。そこには、貴会の相当な御尽力があったことも忘れてはなりません。

私ども町議会の産業建設常任委員会では、町内の隠れた観光資源の開発をテーマに調査を致しましたが、その中で、町内には貴会が管理されている花壇が沿道にあり、見事な花を咲かせ、町のアピールになっていること。その陰には、会員の方々が育苗から定植、水やりなどに取り組んでいただいている御苦労があることを再認識することができました。

また、みどりのオアシスマつりでの花苗配布や町内花壇コンクール表彰などは、町民や町内事業所の皆さまが花を育てるきっかけや励みになるものと私は思います。その先には、花のある町、やさしい心のある町が見えてきます。まさに理想郷です。

最近になって、私は、一輪の花があるだけで、私たちの心や暮らしは豊かになることを実感しています。その具体的な出来事を二つ紹介させていただきます。

私どもの議会活動の拠点となる議場や議員控室、議会事務局は役場の四階にありますが、廊下の一角に、いつの頃からか一輪ざしが置かれ、季節の花が活けられるようになりました。たった一枝の花でも、こんなに心が癒され和むものなのかと正直驚きました。それから、登庁するのが楽しみになり、少し心に余裕が生まれた気がしています。議会運営も効率がよくなるのではないかと期待しています。

二つ目として、私は、自分の仕事机に多肉植物を置いています。水やりの手間がいらぬという理由からですが、それはそれで、毎日、目配りや気配りが必要で、多肉植物の成長に一喜一憂しています。ここからも、たくさんの気づきがあり感謝しています。これだけみても、花のある暮らしが、どれだけ自分を豊かにし、戒めてもらっているかがわかります。

結びに、わが町が、これからも花のある町として、町民のみなさんに愛され、また、わが町を訪れるお客様への一番のおもてなしになるよう、貴会の御活躍を御祈念申し上げます。